

| 特集 |

疾患別“イルネスクリプト”

腹痛

プライマリ・ケア診療において、
腹痛は最も「診断エラー」を生じやすい症状とされています*。
また近年、主に病院救急での腹痛診療においては、
造影CT検査の実施が重視されてきており、
病院への紹介の閾値が以前より下がっている印象があります。
したがって、腹痛診療の能力の維持が、
診療の場によっては困難になってきています。

「イルネスクリプト (illness script)」は、
患者像や診療の場といったコンテキストをベースに、
発症の仕方→症状・身体所見→検査→診断→治療までを
時間経過に沿ったある種の“ストーリー”と捉えて長期記憶として構築され、
臨床推論に活用されるものです。
経験ある医師のイルネスクリプトを知することは、
自分自身の腹痛診療の振り返りや見直しにつながる事が期待されます。
そこで本特集では、プライマリ・ケア外来診療における腹痛診療で
“ピットフォール”になりやすい疾患のイルネスクリプトを紹介し、
それを読み込むことによって、紹介や転医のあとに
「あっ、しまった!」と思わずに済むような
知識を得たり、ブラッシュアップすることを目指します。

企画 | 藤沼康樹

* Ely JW, et al: Diagnostic errors in primary care; lessons learned. J Am Board Fam Med 25(1):87-97, 2012. PMID 22218629

で学ぶ

ヒヤツとしがちな
疾患を中心に

診療を

磨き上げる

22症例

 [症例集Ⅰ～Ⅴ]における太字の記述は、
各執筆者の「思考プロセス」にあたる部分を表しています。

今月の Questions

Q1 腹痛診療の極意は? >>> 518

Q2 腹痛診療において、
診断が不明確な時に
留意すべきことは? >>> 527